

中学生の読書行動に与えるメディア・ミックスの影響

鴫田 大道

本研究では、中学生が読書においてメディア・ミックス作品からどのような影響を受けているかを調査し、メディア・ミックスが中学生の読書行動に与えている影響について図書の選択や読書の動機づけに着目して考察を行った。調査方法としては文献調査と質問紙調査を行った。

日本におけるメディア・ミックスは1970年代後半に始まり、映画、テレビ、小説、漫画など現在にかけて多様な展開をした。またメディア・ミックスに関する文献調査を行い、本研究ではメディア・ミックスを「複数の異なるメディアにおける娯楽作品の展開、または広告活動などの企業活動」と定義した。

中学生の読書量と不読率は、2000年代を境に読書量は増加傾向に不読率は減少傾向にある。この要因として全校一斉読書などの運動があげられる。また読書傾向は軽読書化の傾向にあり、現在の中学生はメディア・ミックス作品の影響を受けているということがいえる。実際にメディア・ミックス作品は映画化などによって学年や性別を超え幅広い読者に読まれるようになっており、読書の動機づけへの影響がみられた。

質問紙調査の結果から、中学生は意欲的ではないにしろ読書に対して好意的であると言え、自発的な読書を行い各々が自分の意思で読書をしていることが窺えた。そうした中で中学生の読書行動、特に読書の動機づけにメディア・ミックスは一定の効果があったといえる。これは全体の約10%前後の生徒が映画作品を見てから読書を行っており、小説作品を読んだ理由として映画作品を見たからという理由が多くあげられていた、ということからわかる。

以上の点からメディア・ミックスは中学生の図書選択や読書の動機づけについて、一定の効果があると分かった。学校の図書館などにおいてメディア・ミックス作品の本を所蔵する、紹介することによって映画作品を見た、テレビで作品を知った生徒がこれらの本を読書するといった読書への導きなどが行えるのではないかと考える。また中学生は他者からの薦めよりも自発的な理由での読書を行っており、これに対して学校の教員などがメディア・ミックス作品に関する情報を提供することで、より一層の読書の動機づけが行えるのではないかと考える。

しかし、その一方でメディア・ミックスとは企業活動であり、必ずしもメディア・ミックスされた作品が良書であるとは限らず、質の高い読書につながるかという問題点があげられる。こうした中において、作品自体が中学生において質の高い読書となりえるかを選書の段階で十分に考慮する必要がある。

(指導教員 平久江祐司)